

と爲すなり。

⑤ Sine-usu 碑文北面第三行には On Uiyur 即ち十〔姓〕 Uiyur なる名の記されたるを見る、即ち Ramstedt 氏に従へば

3).....das in [Flussgebiete?] geliebene Volk herrschte über die Zehn-Uiguren und Neun-Uyuzen hundred Jahre und..... Orkhon Fluss..... fünfzig Jahre geherrscht hatte.

と譯せり、碑文は此の部分に於て著しく残缺し、其の意味を解し難き所多けれども、十〔姓〕 Uiyur と九〔姓〕 Oyuz との文字は極めて明らかに記され、疑の存するなし、抑も十〔姓〕 Uiyur なる名は從來獨り Rashid-eddin の回鶻開國の傳説中に現れたる名にして、他に見えず、余輩が近く見るを得たる Marquart 氏の新著なる Osttürkische Dialectstudien, S. 35-36 に氏が此の傳説中の十姓 Uiyur に就きて説を爲せるものを見るに、西突厥は又 Oguz と稱せられたることあれば、其の十姓、十箭等の名の代りに、On Oguz と稱せられたりしものと考へらる、Rashid-eddin の言と On Uiyur 及び Toquz Uiyur なるものは、明らかに西突厥及び回鶻に應ずるものなりと言ひ、而して Toquz Uiyur なる名の稱へらるゝに至りしは、回鶻の高昌に移りし後は、Toquz Oyuz なる名は只往昔の名残として存し、常には其の支配に當りし Uiyur 部の名を以て稱せられしが、既に解釋を得ざるに至りし Toquz Oyuz なる名は、遂に Toquz Uiyur の名と代るに至りしなりと論じたり、然も氏は此の後新に Sine-usu 碑文を見、其の中に前記の如く On Uiyur; Toquz Oyuz なる名稱の存するを認むるや、同書の末に附したる補正に於て